

第35回日本エイズ学会学術集会・総会

ランチョンセミナー6

現地開催+WEBライブ配信

抗HIV薬

ジェネリック医薬品の時代

～医療費抑制の切り札として～

日時

2021年

配信：Live Channel 2

11月22日月 11:55-12:55

グランドプリンスホテル高輪

第2会場

〒108 8612 東京都港区高輪 3-13-1

(B1F クラウンルーム)

座長

松下 修三 先生

ヒトレトロウイルス学共同研究センター
センター長

演者

迫田 直樹 先生

法円坂薬局
薬局長

矢倉 裕輝 先生

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
薬剤部 研究教育主任

エイズ先端医療研究部 副HIV感染制御研究室長

現地でのランチョンセミナー参加は整理券制となります。

【配布時間】 11/22(月) 8:00-11:30 (無くなり次第、配布終了)

【配布場所】 グランドプリンスホテル高輪 B1F ロビー

※整理券の受け取りには、参加証の提示が必要です。

※整理券はセミナー開始5分後に無効となります。

※おひとり様1枚限り、開催当日分のみのお渡しとなります。

※ソーシャルディスタンス確保のため、会場内の席数を減らして開催いたします。

満席の場合は、立見は出来ませんので予めご了承ください。

【共催】 第35回日本エイズ学会学術集会・総会
共和薬品工業株式会社

抗HIV薬 ジェネリック医薬品の時代 ～医療費抑制の切り札として～

我が国におけるHIV陽性者に対する医療制度は、世界的にも非常に恵まれたものであるといわれている。

抗HIV薬の進化は著しく、治療に長足の進歩をもたらしたが、一方、抗HIV薬は高薬価でもあり、今後の医療支援制度の維持を考えた場合、薬剤費の公費への圧迫は看過出来ないレベルにきていると言える。

この恵まれた制度を維持する為の身近な施策の一つとして、ジェネリック医薬品の導入が挙げられる。

2019年12月に本邦でも抗HIV薬のジェネリック医薬品（ラバミコム[®]配合錠）が発売された。制度を利用することで、薬剤費に対する自己負担額が変わらないケースが多いHIV診療の中で、ジェネリック医薬品が、今後どこまで国内で定着するのか？

今回、保険薬局薬剤師の立場から、HIV陽性者を受け入れている保険薬局の立場と意義、更に実際に患者にラバミコム[®]配合錠を説明する際に気を付けている事を、また病院薬剤師の立場からは、ラバミコム[®]配合錠を品質面から検討し、先発品に代わり得る選択肢になるのかについてご講演頂く。